

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472700523	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	株式会社 スマイル		
事業所名	スマイル住まいる三浦		
所在地	( 238-0111 ) 神奈川県三浦市初声町下宮田601-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成27年2月17日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpjDetails.aspx?JGNO=ST1472700523&SVCD=320&THNO=14210>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、認知症になってもその人らしさを失わず、持てる力を存分に発揮しながら暮らす家を作りたいと思っています。その人らしさを尊重し、できることをしていただく暮らしにはリスクもあります。しかしリスクを恐れるあまり、可能性を小さくしてしまうケアはしません。自らの意志で暮らしたいと願い、暮らす力を持つ方の足りない部分をお手伝いさせていただく。そんな姿勢でそっと支えていきます。  
”手を出さない、口を挟まない、目は離さない”を信条にしています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年3月17日	評価機関 評価決定日	平成27年5月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは京浜急行久里浜線三崎口駅から3分程、自然豊かな三浦の新興住宅地の一角にあります。経営母体は横須賀市に本部を置く「株式会社スマイル」で横須賀市、三浦市の他、横浜市、静岡市にグループホーム・デイサービス・訪問入浴介護等の事業を広く展開しています。建物の1階はデイサービス、2～3階がグループホームとなっています。

<優れている点>

法人本部は顧客満足度のアンケート調査を行い、入居者や家族からの意見・要望を吸い上げています。分析した結果は事業運営に反映させ、実践に活かしています。入居者の「その人らしさ」を大切に、住まいとしてのホームの在り方や入居者が役割を担って生活する意味を追求し、その実現を目指しています。

<工夫点>

入居者の毎日の生活や体調を詳細に記した「毎日の生活記録」を毎月、機関紙「スマイル三浦グループホーム便り」とともに全ての家族に送付しています。職員が日々、記録した書類をそのままコピーしたもので、入居者のホームでの生活を家族は十分に知ることができるようになっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	スマイル住まいる三浦
ユニット名	やまゆり（2F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念・行動規範、ホームの理念を掲示しています。実践にむけて朝礼で唱和しています。 必要に応じて、管理者・事業所長が個別に指導し、実践につなげるように働きかけています。	法人の理念・行動基準と事業所独自の理念もありますが、目指すところは「お客様を敬い、笑顔で支援」です。親しさと馴れ馴れしさの区別にも気を配っています。不都合があれば、管理者が出来るだけその場で職員に気づきを求めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・傾聴ボランティアや中学生の体験学習の受け入れは継続中。現在3名の方が活動中。 ・毎月、地域の居宅介護支援事業所に赴き、会報により日常の様子や空き情報を伝えることで、継続的な関係作りに努めている。	市内住民を対象にした認知症の説明会やグループホームの資料提供が好評です。周囲が新興住宅地でまだ町内会が無く、近隣全体との交流の場はありませんが、定期訪問の傾聴ボランティアの協力などで、近所付き合いの輪も広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・市のグループホーム連絡会と包括支援センターが連携して、地域住民を対象にした認知症の研修会やグループホームの紹介を行いました。 ・運営推進会議を通じて、勉強会を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を見直し、ホームの現状や取り組みの報告の他に、民生委員や地域住民、ご家族向けに認知症の理解や予防、介護のポイントなどの勉強会を兼ねるようにしました。	開催日は家族の要望により、第3日曜日と決めています。休日の為、市からの出席はありませんが、民生委員や近所の住民と家族の参加があります。事業所の報告に加え、同時開催の認知症予防についての勉強会が好評です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月、市に空き情報を提出しています。普段は連絡を取る機会が少ないので、会報を送付するなどして、情報共有を図らなければならないと考えております。	三浦市主催の「傾聴ボランティア養成研修」に場を提供して協力しています。生活保護関連では福祉課、認定更新や施設の空き情報報告などでは高齢介護課と、それぞれの関係課との行き来があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関に施錠することは無く身体拘束のないケアにスタッフ一丸となり取り組んでいます。ユニットに拘らず、情報共有し、各フロアでケアするように取り組んでいます。プラスして「スピーチロック」にならないケアにも取り組んでいます。	採用時に研修を行い、年に2回の人事考課の時にも全職員に再確認をしています。事業所の玄関にも施設内部にも、昼間は施錠をしていません。身体拘束をしないことによるリスクについては、入所時に家族に説明しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新人職員等を対象にした研修において学ぶ機会を設けています。(他の職員も参加可能) また常々お客様を敬う姿勢・させて頂く姿勢をモットーにサービス提供するよう努めています。結果、虐待防止に繋がると考えております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご家族が後見人になられているお客様が新たに入居され、管理者を中心に学習中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行いお客様やご家族が安心してご入居していただけるよう説明させていただいています。相談にも随時対応させていただいています。契約は必ずホームに来所していただき、取り交わしています。マニュアルを作成し、徹底していくよう努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来訪された時は必ず現状報告を行ない、ご意見やご要望を聞くようにしています。必要な事項については職員に必ず伝達しています。また苦情等については、社内で共有できる仕組みとなっています。本年度は法人として全社一斉のアンケートを実施し、お客様・ご家族の貴重な意見を反映できるよう、全社的に取り組んでいます。	2年毎に法人本部が家族に直接アンケートを行い、課題があれば各事業所に改善指示があります。毎月、家族に「毎日の生活記録」を送っています。来訪時に聞いた意見や要望は、全て連絡ノートに記録して職員で情報を共有し、運営の参考にしていきます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年1回、所長・管理者と個別に面談する場を設けています。ミーティングを月2回にして意見徴収・交換の場を増やし、反映させています。日頃より、スタッフに声を掛け、意見を聞いています。また気軽に企画・提案ができるようにシートを作成し、反映させています。昨年は法人全体で従業員満足度アンケートを実施し、運営の参考としています。	年に1回の個別面談、月に2回のミーティング、法人全体での職員満足度アンケートなどで、全職員の意見を吸い上げています。更に管理者は、日頃から職員との個別面談回数を増やして、職員の意見を聞くことを自らの目標にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回、所長による面談を行なっています。また必要に応じて、面談を行ない、日々のモチベーション維持を図っています。各自年間目標を立て、評価の対象としております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で、採用時研修・介護技術研修やリスクマネジメント研修等を計画し、提示しています。また外部研修も法人全体に回覧し、参加機会を設けています。事業所としてもミーティングの時間を研修に充てることもあります。本年度より法人全体での外部機関により新たなスキルアップ研修を実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内のグループホーム連絡会に所属して管理者は必ず参加し、内容は職員に提示しています。本年度も年間計画で研修会を実施し、参加し、伝達するようにしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必ず入居前にお客様から話を伺いご要望・ご意見や不安などを記録し、職員に伝えています。また入居しばらくはノートを用意し、様々な出来事・言動を記録に残しサービスに反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には話を伺う機会を多く持つようになっています。（見学・申し込み・アセスメント・契約など） また入居後も必要時だけでなく、面会時なども職員が話を伺うようになっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント実施後、入居者判定会議において、必要な支援を検討しています。入居前に利用していたサービス事業所からも情報収集して、必要性を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お客様の意見を聞きながら、また促しながら、出来ることを見守り支援しています。（掃除・食事作り・食器拭きなど） お客様同士の関係についても適度に距離を置き、自律性を尊重しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、お客様の生活状況を報告して、把握していただいています。外出や外食を促したり、必要に応じて受診同行を依頼するなどご家族もお客様を支えているという意識を持って頂ける機会を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日常生活の中で傾聴し、思いを聞くことで、ご友人の電話や来所を進める等心がけています。 また本年度、ご近所で交流があった方がご家族の勧めもあり、入居されたケースがありました。	来訪が途絶えたり連絡が疎遠になっている家族には、電話などで来訪を勧めています。友人が訪ねて来たり、定期訪問美容を利用せずに馴染みの美容院に行く入居者もいます。馴染みになった3名の傾聴ボランティアが毎月話合いに来ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の体操・レク・散歩等お客様全員が楽しむことが出来る場を作っています。また少人数で交流ができるような環境作りにも努めています（廊下にソファを設置しています） またスタッフは見守り重視で、お客様同士で何かに取り組めるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も可能であればご本人・ご家族との関係を継続させていただき相談・支援をさせていただきたいと考えています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様やご家族の希望・意向を伺った時は連絡ノートに書き込んで情報共有するようにしています。意思表示が困難な方でも表情等で把握し、ご家族からも伺う（以前はこんな事を言っていたというような）ことにしています。	実現出来ない事であっても、入居者本人の気持ちを汲むことを第一にしています。元気だった頃に戻りたいという思いにも、話を十分に聞くことにしています。禁食の食べ物の求めには代替え品を工夫し、思いを拒否しないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント調査以外では、折に触れてご本人・ご家族から今までの生活歴や暮らし方、生活環境を伺い、把握に努めています。内容についてはノートでスタッフ間で伝達しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・顔色等）を体調の把握に努めています。また排泄状況・食事量などの記録は欠かさず行なっています。まずは見守り重視で、能力の確認をするようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングの記入は職員全員が行なっています。また計画の作成も職員から意見を聞くシステムが出来ており、反映させています。家族からの要望、また医療関係者からの意見等も反映させています。	ケアプランの援助項目の実施状況を毎日「支援経過記録表」に記入し、6ヶ月毎の見直し会議で検討しています。医師や看護師が同席出来ない時は、会議前に情報提供し意見やアドバイスを受けています。入院、急変時はその都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づきを記録し、新たな介護や情報については連絡ノートで共有しています。また必ず勤務前には記録を確認するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	希望に応じて、同事業所のデイサービスに参加したり、また同一法人の他事業所の企画に参加するなどしています。買い物や美容院への外出など個々のニーズに応じた対応をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎週地域のスーパーにお客様と共に買い物に行っています。訪問理容の利用や傾聴ボランティアの受け入れを行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	お客様・ご家族の意向を伺い、往診医を依頼したり、以前からかかりつけ医を継続したり柔軟に対応しています。また必要に応じて他の医療機関にも受診しています。	入居者本人や家族の希望により、以前からのかかりつけ医を利用することも可能です。通院は家族対応が基本ですが、入居者の状況や事情により、職員が付き添うこともあります。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携体制により、週1回の訪問看護師が健康管理や処置を行なっております。夜間の相談体制も整っております。また必要に応じて、同事業所のデイサービスの看護師に相談・対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期退院ができる様、介護サマリ等を中心に情報提供を行っています。またその後の経過においても病院関係者と綿密な話し合いを持てるようにしています。また地域の総合病院の地域連携室へは月1回訪問し、関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	新規入居のお客様には、契約時に看取りについての説明しています。またスタッフには法人全体の研修で看取りについての考え方等を伝達しています。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」・「看取りケアに関する確認事項」を示し、希望や身体状況によって今後に向けた支援を行っています。法人内では看取りの経験も既にあり、職員の勉強会や医療連携の体制を充実させ対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎日、朝礼にてCPRの手順の確認を行なっています。また、法人で普通救命講習会を企画し、参加しています。本年度、急変対応が必要なケースがあり、実践力をより身につけるように取り組んでおります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	お客様の重度化が進み、訓練の回数を増やす必要があります。重度の方々の避難誘導については消防署からの指導を受けました。また食料等の備蓄についても検討する必要があります。	災害防災マニュアルを細かく作成し、設備点検の実施も徹底しています。今後は備蓄品の収納場所を工夫して確保していきたいと考えています。	法人本部からの支援があっても、事業所内に一定日数の食料備蓄をしておくことが期待されます。また、近隣の協力を得ながら、夜間想定避難訓練の実施も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スマイルの誓いとしてお客様を敬う姿勢（言動に限らず記録・書類等においても）を提示し、全職員への徹底を図っています。法人として外部講師を招き、マナー向上にも努めています。	丁寧な言葉遣い、入居者を敬う姿勢を徹底しています。職員は日頃から入居者と十分なコミュニケーションをとり、入居者の思いや訴えを知るように努めています。また接遇マナー講座を職員は受講し、学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定は会社の企業理念として、掲げており、お客様の行動を職員が決めてしまう事のないよう、傾聴し自己決定を中心とした生活が送れるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	例えば、起床や就寝時間はお客様の希望に沿っています。入浴は希望や状況に応じて入っています。それぞれのお客様が日課として継続できる取り組みを考え、提案し、取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	援助が必要な方は好みを聞きながら、一緒に衣服を選んでいきます。季節感を感じられるような支援に取り組んでおります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を切る方、味見をする方、食器洗いや食器拭きをしてくださるお客様がいます。メニューはお客様と共に考えます。また月1回は外食する機会を作っています。	三浦特産の新鮮な魚や野菜を調達し、入居者の希望を聞きながら、フロアごとにメニューを工夫しています。配膳、ジャガイモの皮むき、後片付けなどを手伝う入居者もいます。レクリエーション外出の際には外食も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の好みや体調を考慮して、食事の盛り付け量を調整しています。水分量は必ず記録し、水分不足にならないよう促したり、好みに応じて対応するなどしています。また、食材にも配慮し、健康食を意識した食材や調味料を使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後ご本人の能力・口腔状態に合わせた支援をさせていただいています。週1回の訪問歯科を利用し、口腔状況を把握しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、お客様の表情や動作からトイレ誘導を促し、トイレでの排泄を維持しています。以前よりおむつ等の使用量が減少した方もいらっしゃいます。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげなくトイレ誘導しています。排泄チェック表には水分摂取量も記入しています。プライバシーに配慮しながら入居者のサインを見逃さないように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ADLが低下してきている方ほど運動不足になりがちで、便秘傾向にあります。服薬だけに頼らず、乳製品・調味料等を利用した取り組みをしております。医師や看護師からも指導いただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	お客様の希望に添えるタイミングでの入浴実施に努めています。またADLの低下で一般浴が困難な方はデイサービスのリフト浴を利用して清潔保持に努めています。	体調に合わせ、入浴支援しています。入浴嫌いの入居者にはタイミングを見て工夫を凝らし、誘導しています。浴室は家庭と同じようなつくりですが、手すりを工夫しています。1階デイサービスの機械浴の利用も身体状況により可能です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お客様一人ひとりの状況を把握し適切な休息をお客様の意見を尊重させていただきながら支援させていただいています。昼間、ベッドや畳で休んだりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が処方内容に目を通せるようになっています。必要に応じて職員間で話し合い医療機関への相談を行っています。なるべく量を減らしていきたいと考えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除をされる方、調理を手伝う方、部屋で裁縫をされる方、部屋でテレビを観る方などそれぞれの好みに合わせて支援・見守りをしています。何かをする意欲を尊重するようにしています。毎日出来ること、続けられる事を意識しております。日課として出来ることをそれぞれ提案し、継続しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や体調・希望に応じて毎日散歩に出かけています。週1～2回は食事の買い物に出かける為、声掛けをして一緒にショッピングしています。また季節に沿った外出（初詣、花見、ドライブなど）を企画しています。	晴天の日には近隣を散歩しています。芝生を植えた屋上からの景観はよく、日光浴や外気浴を楽しむことができます。食材の買い出しに職員と一緒に出かける入居者もいます。三浦半島の自然を楽しむ外出レクリエーションも実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を自己管理されている方もいます。買い物時は財布を持っていただき、好きなものを買えるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用や手紙のやり取りは自由であり、交流についても支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お客様が落ち着いて過ごしていただける環境作りを心がけています。又季節行事に伴った展示物・掲示物を取り入れ楽しんでいただけるよう配慮しています。またお客様自身がカーテンの開閉、ライトの消灯点灯を自由に行っています。	リビングや廊下の窓は大きく、眺めも陽当たりも良好です。壁、床も明るい色調です。一角にある水槽ではレクリエーションで入手した金魚が大きく育ち、入居者の目を楽しませています。台所とリビングは一体化し家庭的な雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に椅子を設置し、お客様同士でお話をしていただけるようなスペースとしています。お互いの部屋に出入りして交流を深めていられます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お客様の個室については内装はお客様の自由であり生活歴や好みの環境にさせていただける状態になっています。なるべく使い慣れた物を置くように努めています。またスペースに問題なければ、何でもお持ちいただけるようにしています。	入居者は使い慣れた家具を置き、家族の写真や手芸作品を飾っています。各居室には車いすのまま利用できる洗面台を設置しています。職員は常に清潔を保つように努めています。居室前のベランダで花や野菜を育てている入居者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に配慮しながら、わかる表現・できるように手が届く所にある設備を心がけています。		

事業所名	スマイル住まいる三浦
ユニット名	うみう（3F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念・行動規範、ホームの理念を掲示しています。実践にむけて朝礼で唱和しています。 必要に応じて、管理者・事業所所長が個別に指導し、実践につなげるように働きかけています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・傾聴ボランティアや中学生の体験学習の受け入れは継続中。現在3名の方が活動中。 ・毎月、地域の居宅介護支援事業所に赴き、会報により日常の様子や空き情報を伝えることで、継続的な関係作りに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・市のグループホーム連絡会と包括支援センターが連携して、地域住民を対象にした認知症の研修会やグループホームの紹介を行いました。 ・運営推進会議を通じて、勉強会を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の内容を見直し、ホームの現状や取り組みの報告の他に、民生委員や地域住民、ご家族向けに認知症の理解や予防、介護のポイントなどの勉強会を兼ねるようにしました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	毎月、市に空き情報を提出しています。普段は連絡を取る機会が少ないので、会報を送付するなどして、情報共有を図らなければならないと考えております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関に施錠することは無く身体拘束のないケアにスタッフ一丸となり取り組んでいます。ユニットに拘らず、情報共有し、各フロアでケアするように取り組んでいます。プラスして「スピーチロック」にならないケアにも取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新人職員等を対象にした研修において学ぶ機会を設けています。（他の職員も参加可能）また常々お客様を敬う姿勢・させて頂く姿勢をモットーにサービス提供するよう努めています。結果、虐待防止に繋がると考えております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	ご家族が後見人になられているお客様が新たに入居され、管理者を中心に学習中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行いお客様やご家族が安心してご入居していただけるよう説明させていただいています。相談にも随時対応させていただいています。契約は必ずホームに来所していただき、取り交わしています。マニュアルを作成し、徹底していくよう努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来訪された時は必ず現状報告を行ない、ご意見やご要望を聞くようにしています。必要な事項については職員に必ず伝達しています。また苦情等については、社内で共有できる仕組みとなっています。本年度は法人として全社一斉のアンケートを実施し、お客様・ご家族の貴重な意見を反映できるよう、全社的に取り組んでいます。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年1回、所長・管理者と個別に面談する場を設けています。ミーティングを月2回にして意見徴収・交換の場を増やし、反映させています。日頃より、スタッフに声を掛け、意見を聞いています。また気軽に企画・提案ができるようにシートを作成し、反映させています。昨年は法人全体で従業員満足度アンケートを実施し、運営の参考としています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回、所長による面談を行なっています。また必要に応じて、面談を行ない、日々のモチベーション維持を図っています。各自年間目標を立て、評価の対象としております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で、採用時研修・介護技術研修やリスクマネジメント研修等を計画し、提示しています。また外部研修も法人全体に回覧し、参加機会を設けています。事業所としてもミーティングの時間を研修に充てることもあります。本年度より法人全体での外部機関により新たなスキルアップ研修を実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市内のグループホーム連絡会に所属して管理者は必ず参加し、内容は職員に提示しています。本年度も年間計画で研修会を実施し、参加し、伝達するようにしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必ず入居前にお客様から話を伺いご要望・ご意見や不安などを記録し、職員に伝えていきます。また入居しばらくはノートを用意し、様々な出来事・言動を記録に残しサービスに反映するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には話を伺う機会を多く持つようになっています。（見学・申し込み・アセスメント・契約など） また入居後も必要時だけでなく、面会時なども職員が話を伺うようになっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント実施後、入居者判定会議において、必要な支援を検討しています。入居前に利用していたサービス事業所からも情報収集して、必要性を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お客様の意見を聞きながら、また促しながら、出来ることを見守り支援しています。（掃除・食事作り・食器拭きなど） お客様同士の関係についても適度に距離を置き、自律性を尊重しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、お客様の生活状況を報告して、把握していただいています。外出や外食を促したり、必要に応じて受診同行を依頼するなどご家族もお客様を支えているという意識を持って頂ける機会を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	日常生活の中で傾聴し、思いを聞くことで、ご友人の電話や来所を進める等心がけています。 また本年度、ご近所で交流があった方がご家族の勧めもあり、入居されたケースがありました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の体操・レク・散歩等お客様全員が楽しむことができる場を作っています。また少人数で交流ができるような環境作りにも努めています（廊下にソファを設置しています） またスタッフは見守り重視で、お客様同士で何かに取り組めるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用終了後も可能であればご本人・ご家族との関係を継続させていただき相談・支援をさせていただきたいと考えています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お客様やご家族の希望・意向を伺った時は連絡ノートに書き込んで情報共有するようにしています。意思表示が困難な方でも表情等で把握し、ご家族からも伺う（以前はこんな事を言っていたというような）ことにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント調査以外では、折に触れてご本人・ご家族から今までの生活歴や暮らし方、生活環境を伺い、把握に努めています。内容についてはノートでスタッフ間で伝達しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・顔色等）を体調の把握に努めています。また排泄状況・食事量などの記録は欠かさず行なっています。まずは見守り重視で、能力の確認をするようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングの記入は職員全員が行なっています。また計画の作成も職員から意見を聞くシステムが出来ており、反映させています。家族からの要望、また医療関係者からの意見等も反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や気づきを記録し、新たな介護や情報については連絡ノートで共有しています。また必ず勤務前には記録を確認するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	希望に応じて、同事業所のデイサービスに参加したり、また同一法人の他事業所の企画に参加するなどしています。買い物や美容院への外出など個々のニーズに応じた対応をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎週地域のスーパーにお客様と共に買い物に行っています。訪問理容の利用や傾聴ボランティアの受け入れを行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	お客様・ご家族の意向を伺い、往診医を依頼したり、以前からかかりつけ医を継続したり柔軟に対応しています。また必要に応じて他の医療機関にも受診しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携体制により、週1回の訪問看護師が健康管理や処置を行なっております。夜間の相談体制も整っております。また必要に応じて、同事業所のデイサービスの看護師に相談・対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期退院ができる様、介護サマリ等を中心に情報提供を行っています。またその後の経過においても病院関係者と綿密な話し合いを持てるようにしています。また地域の総合病院の地域連携室へは月1回訪問し、関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	新規入居のお客様には、契約時に看取りについての説明しています。またスタッフには法人全体の研修で看取りについての考え方等を伝達しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎日、朝礼にてCPRの手順の確認を行なっています。また、法人で普通救命講習会を企画し、参加しています。本年度、急変対応が必要なケースがあり、実践力をより身につけるように取り組んでおります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	お客様の重度化が進み、訓練の回数を増やす必要があります。重度の方々の避難誘導については消防署からの指導を受けました。また食料等の備蓄についても検討する必要があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スマイルの誓いとしてお客様を敬う姿勢（言動に限らず記録・書類等においても）を提示し、全職員への徹底を図っています。法人として外部講師を招き、マナー向上にも努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定は会社の企業理念として、掲げており、お客様の行動を職員が決めてしまう事のないよう、傾聴し自己決定を中心とした生活が送れるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	例えば、起床や就寝時間はお客様の希望に沿っています。入浴は希望や状況に応じて入っています。それぞれのお客様が日課として継続できる取り組みを考え、提案し、取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	援助が必要な方は好みを聞きながら、一緒に衣服を選んでいきます。季節感を感じられるような支援に取り組んでおります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を切る方、味見をする方、食器洗いや食器拭きをしてくださるお客様がいます。メニューはお客様と共に考えます。また月1回は外食する機会を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の好みや体調を考慮して、食事の盛り付け量を調整しています。水分量は必ず記録し、水分不足にならないよう促したり、好みに応じて対応するなどしています。また、食材にも配慮し、健康食を意識した食材や調味料を使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後ご本人の能力・口腔状態に合わせた支援をさせていただいています。週1回の訪問歯科を利用し、口腔状況を把握しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、お客様の表情や動作からトイレ誘導を促し、トイレでの排泄を維持しています。以前よりおむつ等の使用量が減少した方もいらっしゃいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ADLが低下してきている方ほど運動不足になりがちで、便秘傾向にあります。服薬だけに頼らず、乳製品・調味料等を利用した取り組みをしております。医師や看護師からも指導いただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	お客様の希望に添えるタイミングでの入浴実施に努めています。またADLの低下で一般浴が困難な方はデイサービスのリフト浴を利用して清潔保持に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お客様一人ひとりの状況を把握し適切な休息をお客様の意見を尊重させていただきながら支援させていただいています。昼間、ベッドや畳で休んだりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が処方内容に目を通せるようになっています。必要に応じて職員間で話し合い医療機関への相談を行っています。なるべく量を減らしていきたいと考えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除をされる方、調理を手伝う方、部屋で裁縫をされる方、部屋でテレビを観る方などそれぞれの好みに合わせて支援・見守りをしています。何かをする意欲を尊重するようにしています。毎日出来ること、続けられる事を意識しております。日課として出来ることをそれぞれ提案し、継続しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や体調・希望に応じて毎日散歩に出かけています。週1～2回は食事の買い物に出かける為、声掛けをして一緒にショッピングしています。また季節に沿った外出（初詣、花見、ドライブなど）を企画しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を自己管理されている方もいます。買い物時は財布を持っていただき、好きなものを買えるようにしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用や手紙のやり取りは自由であり、交流についても支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お客様が落ち着いて過ごしていただける環境作りを心がけています。又季節行事に伴った展示物・掲示物を取り入れ楽しんでいただけるよう配慮しています。またお客様自身がカーテンの開閉、ライトの消灯点灯を自由に行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に椅子を設置し、お客様同士でお話をしていただけるようなスペースとしています。お互いの部屋に出入りして交流を深めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お客様の個室については内装はお客様の自由であり生活歴や好みの環境にさせていただける状態になっています。なるべく使い慣れた物を置くように努めています。またスペースに問題なければ、何でもお持ちいただけるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に配慮しながら、わかる表現・できるように手が届く所にある設備を心がけています。		

平成26年度

## 目標達成計画

事業所名 スマイル住まいる三浦

作成日： 平成 27 年 7 月 1 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	散歩や外出する機会が少ない。	外出する機会を設ける。	天気のいい日は景色が見える窓際の方へ行ったり屋上、ベランダがあるので活用したり、スタッフの人数をそろえ外出する機会を設けたい。	12ヶ月
2	35	避難訓練の実施回数を増やす。	夜間想定・火災・震災などの避難訓練を行う。	定期的に避難訓練を行えるようにしたい。色んなシチュエーションで行って行きたいです。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月